

# 徳島県立博物館で実施した「地質の日」関連事業

中尾 賢一<sup>1)</sup>・辻野 泰之<sup>1)</sup>

## 1. 徳島県立博物館で実施した「地質の日」関連事業について

2008年4月から5月にかけて、徳島県立博物館では次の4件の地質関連の行事や展示を行いました。このうち「地質の日」関連事業として事務局に正式に登録していたのは2件のみですが、当館では、これらのすべてを「地質の日」関連事業として実施いたしましたので、以下にご報告いたします。

### 【展示】

・「地質調査と地質図」(期間：4月1日(火)～6月1日(日))

ハンマーやクリノメーター、ハンドレベル、フィールドノート、ねじり鎌、携帯型GPSなど、地質調査に使うさまざまな道具、地質調査総合センター・旧地質調査所発行の20万分の1地質図「<sup>つるぎさん</sup>剣山」, 「徳島」および20万分の1シームレス地質図の一部の展示を常設展示室の一角で行いました(写真1)。これは我々が「地質の日」に合わせて今回初めて編成したミニ展示であったのですが、テーマが地味なためか、マスコミや一般入館者からの問い合わせや目立った反響は殆ど無く、実に残念でした。

・「和泉層群の化石」(期間：4月1日(火)～7月6日(日))

主に化石愛好家から寄贈していただいた大型化石を四国東部、淡路島、大阪南部の地域別に分けて展示を行いました。

### 【行事】

・「<sup>たけがしま</sup>穴喰浦～竹ヶ島の地層見学」(4月20日(日), 徳島県海陽町)

穴喰浦～竹ヶ島に分布する四万十帯のタービダイト砂岩層中に認められる堆積構造や生痕化石、ノッチなどの海岸地形の観察を行いました。

・「白亜紀の地層見学」(5月11日(日), 徳島県勝浦町)

「多くの動物化石や植物化石、四国で唯一の恐竜



写真1 ミニ展示「地質調査と地質図」。

1) 徳島県立博物館  
770-8070 徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園内

キーワード：「地質の日」関連行事, 徳島県立博物館, 日本の地質百選, 天然記念物, 穴喰浦舌状漣痕, 和泉層群, 化石, 展示

化石が産出した白亜紀の地層(下部白亜系立川層および羽ノ浦層)をハイキング気分でお観察しよう!という趣向で行った行事です(写真2)。

これらの展示と行事のうち「穴喰浦～竹ヶ島地域の地層見学」と「和泉層群の化石」の2件について、以下に詳しくご報告いたします。

## 2. 穴喰浦～竹ヶ島の地層見学について

徳島県最南部に位置する海陽町穴喰浦～竹ヶ島には、四万十帯古第三系のタービダイト砂岩泥岩互層(室戸半島層群奈半利川層;公文・井内, 1976)が分布しており、その地層中にはさまざまな堆積構造や深海性の生痕化石が観察されます(石田, 1993)。特に、国指定天然記念物であり「日本の地質百選」にも選ばれた舌状蓮根の露頭(以下、穴喰の漣痕: 写真3)、および「竹ヶ島生痕化石」として海陽町の天然記念物に指定されている *Protovirgularia* (二枚貝の歩行痕、従来から *Nereites* として知られている紐状の大型生痕化石; 碓・奈良, 2006) が観察できる露頭も含まれています。なお、穴喰の漣痕は、露頭から直接型取りした複製が当館に常設展示されているため、既に一般の方にもよく知られていました。

徳島県立博物館では、穴喰浦～竹ヶ島周辺での地



写真2 「白亜紀の地層見学」で行事参加者に化石の解説をする講師(辻野)。



写真3 「日本の地質百選」に選ばれた舌状漣痕の露頭(2008年2月1日に撮影)。

質・地形の観察会を、少しずつ内容を変更しながら数年に一度実施しています。今回は「日本の地質百選」と天然記念物のことを強調する内容で、今回の地層見学を企画いたしました。

参加者は地元の文化財保護審議会委員を含む9名であり、正午に阿佐海岸鉄道穴喰駅前に集合し、奈半利川層のタービダイト砂岩泥岩互層中に認められる漣痕、コンポリュート層理、フルートマーク、グループマークなどの堆積構造、*Paleodictyon*などの生痕化石、褶曲を観察しました。さらに、現在の海岸地形であるノッチ、風化侵食によって生じた蜂の巣構造、現世海浜の漣痕、スナガニ類の巣穴や砂団子などもこれに合わせて観察しました(写真4)。

当日は天候に恵まれたこと、春の花なども咲き乱れ季節的にも恵まれていたこと、高齢者も含めて参加者が皆健脚揃いであったこともあり、約10kmにもおよぶ歩行距離にもかかわらず最後まで一人も脱落することなく無事に巡検を終えることができました。また、今回の観察会のメインであるタービダイト砂岩泥岩互層中の堆積構造は、一般の方にとっては必ずしも理解しやすい観察対象ではないと思われましたが、我々が解説した内容は概ね理解していただけたようでした。特に、「今回の巡検で地層の見方がわかった!」という我々にとっては嬉しい感想もありました。公式にはアンケートは行っておりませんが、参加者の満足度は高かったようです。

### 3. 和泉層群の化石について

徳島県立博物館では、大規模な更新が困難な常設展示の活性化を図るために、その一角にある部門展示室を用いて年数回の展示会を実施しています。4月1日(火)～7月6日(日)の期間は「地質の日」を含むこともあり、県北地域に分布している上部白亜系和泉層群を取り上げ、そこから産出する大型化石を紹介しました。

和泉層群は、中央構造線の北側に沿って細長く分布する白亜紀後期の地層であり、愛媛県松山市から、徳島県と香川県の県境にある讃岐山脈、淡路島南部の諭鶴羽<sup>ゆづるは</sup>山地を通り、大阪府と和歌山県の県境の和泉山脈に至る、最大幅15km、東西300kmに渡って連続して分布しています(両角, 1991)。特に北縁部の泥岩が発達する地層からはアンモナイトや二枚貝、巻貝などの大型化石が多産し、また海生爬虫類の化石も発見されています。

今回の展示では、館が収蔵している化石愛好家からご寄贈いただいた資料を中心に、四国東部、淡路島、大阪南部と地域ごとに分けて、産出する化石を約100点展示いたしました(写真5)。



写真4 「穴喰浦～竹ヶ島の地層見学」で、タービダイト砂岩層の基底面に認められる生痕化石、および観察する行事参加者。



写真5 部門展示「和泉層群の化石」のうち大阪南部の化石の部分。

この展示を目当てに博物館に足を運んでくれる一般入館者もありました。また、地元の高校生の理科実習でも、「地域の地質や化石の学習」の教材としてご利用いただきました。一般の方々に徳島県北部の地質や化石について広く知っていただいたこと、また常設展の活性化を含め、一定の成果があったと我々は考えております。なお、この展示会は、徳島県立博物館での展示終了後の夏休みの期間中に香川県東かがわ市歴史民俗資料館において、移動展示としても行われました。

#### 参 考 文 献

- 碓 雄太・奈良正和(2006):古第三系室戸半島層群に見られる生痕化石*Protovirgularia*類の分岐とその古生態、二枚貝類の“海底ハイウェイ”。日本地質学会第113年学術大会講演要旨, 225.
- 石田啓祐(1993):四国四万十帯「穴喰浦の化石漣痕」。地質ニュース, no.464, 26-29.
- 公文富士夫・井内美郎(1976):室戸半島北東部、徳島県穴喰町周辺の四万十累層群古第三系。地質雑, 82, 383-394.
- 両角芳郎(1991):企画展解説書「和泉層群の化石」。徳島県立博物館, 30p.

NAKAO Ken-ichi and TSUJINO Yasuyuki (2009): Geology Day's events produced by Tokushima Prefectural Museum.

<受付:2008年8月20日>